

神戶博士
還曆祝賀

記念論文集

京都帝國大學經濟學會

昭和十二年五月一日發行

經濟論叢

第四十四卷 第五號

(通卷第二百六十三號。禁轉載)

奉
呈

神戶正雄先生

執筆者
——
同

目次

滿洲移民の特異性と掃匪問題	法學博士 山本美越乃	一
農家の負債と負擔能力	法學博士 河田 嗣郎	二〇
現代社會學に於けるパレット社會學の地位	文學博士 米田庄太郎	三三
幕末の商稅論	經濟學博士 本庄榮治郎	三三
實際政策と政策原則	經濟學博士 作田 莊一	六六
『維新の詔』に於ける變革の國是	經濟學博士 石川 興二	九六
シュレーデルの王室金庫論	經濟學士 小山田 小七	九七
アダム・スミスに於ける自由主義社會の理念的構造に就いて	經濟學士 中川與之助	一二三
工場内勞働者教育事業の目的	經濟學士 大塚 一朗	一五九
アフタリヨンの貨幣心理說に就いて	經濟學士 松岡 孝兒	一六四
明治初年の官營産業に就いて	經濟學士 堀江 保藏	一六四
財政學の基本問題	經濟學士 大谷 政敬	一八三
取引所實物化論と短期清算取引の應用に就いて	經濟學士 今西庄次郎	二〇二
貨幣の中立性に關する一考察	經濟學士 中 谷 實	二三八
リストの國民生産力說	經濟學士 白杉庄一郎	二四三
財政學と經濟政策論との交流	經濟學士 島 恭彦	二五〇

生産の構造と貿易	經濟學士 松井 清	三六九
租税の農業に及ぼす影響	經濟學士 山岡 亮一	二八六
再保険と共同保険との接近	經濟學士 佐波 宣平	三〇三
耕地管理組合に就いて	經濟學博士 八木芳之助	三二五
熊澤蕃山研究序説	經濟學博士 黒 正 巖	三三六
水産經濟學と其の課題	經濟學博士 蜷川 虎三	三五二
輸入制限と國內物價との關係	經濟學博士 谷口 吉彦	三六三
昭和の税制改革	經濟學博士 汐見 三郎	三八五
自然利子論	文學博士 高田 保馬	四〇七
財政學者の鐵道經濟に關する研究論著に就いて	商 學 士 武藤 長藏	四四四
現段階に於ける租税體系	經濟學博士 土方 成美	四七〇
支那南北辨	法學博士 財部 靜治	四七七
赤字公債の消化	經濟學博士 小島昌太郎	五二三

財政學者の鐵道經濟に關する研究論著に就きて

(交通特に鐵道經濟に關する文獻の經濟學史特に財政學史的研究)

(財政學と交通特に鐵道論との交渉)

武 藤 長 藏

第一節 緒 言

神戸正雄博士還曆祝賀記念論文集に寄稿の清囑を受けそれに酬ゆる爲めに私は如何なる題目を撰ぶべき乎を第一に考へた。

神戸博士が獨逸留學時代の恩師故 Georg von Schanz 教授 (1853—1931) と同教授が永く職を奉ぜられた獨逸 Würzburg 大學に就て私は先づ考へた。

故シャーンツ教授が西曆千八百七十九年マールブルク (Marburg) 大學への就職論文 (Habilitationsschrift) Die Handelsbeziehungen zwischen England und den Niederlanden 1485—1547. Marburg 1879. は私は不幸にして未だ手にしたる事なく、又出世作と稱せらるエェルランゲン (Erlangen) 員外教授時代出版の Englische Handelspolitik

gegen Ende des Mittelalters mit besonderer Berücksichtigung des Zeitalters der beiden ersten Tudors Heinrich VII und Heinrich VIII (Von der Bencke'sche Stiftung in Göttingen 1879 mit dem ersten Preise gekrönt) 2 Bde, Leipzig 1881. は早く我が校圖書館に求めてあり、屢々私は之を利用せんと志あれど、何分私が研究して居る時代よりも少し早き故其事能はず、従てそのシャンツ教授の著述に就て又はそれを引用したる論文を神戸教授の記念論文の題目としては撰び難い。

(附註) 昭和十二年四月發行拙著「日英交通史之研究」自序文其他參照

シャンツ教授は學生時代ミュンヘン、ストラスブルクの外に Würzburg 大學に學びたる事あり、又千八百八十二年同大學の正教授となり晩年に至るまで永く同大學の教授として止り同地にて永眠された。それ故私は Würzburg 又は Würzburg 大學に關係ある論文を寄稿せんかとも考へた。私は先づシーボルト先生 (Philipp Franz von Siebold) (1796—1866) に就て何か神戸博士の記念論文集に相應しき題目を考へたが私は既にシーボルト先生に就ては、(一)シーボルト先生渡來百年記念論文集、(二)Jubiläums Band herausgegeben von der „Deutschen Gesellschaft für Natur und Völker Kunde Ostasiens“ anlässlich ihres 60 jährigen Bestehens 1873—1933, Teil II. Tokyo 1933 に掲載の拙稿 Dr. Ph. Fr. von Siebold und sein erstes Projekt einer Schule für Handelswissenschaften in Nagasaki Japan (三)日獨文化講演集「シーボルト記念號」に收録の拙稿「日歐交通史に關する文獻としてのシーボルトの著述」等を發表したから私は今茲に神戸博士の記念論文集にシーボルト先生に關するものを寄する事を斷念したい。たゞ、神戸博士が大正十三年四月シーボルト先生渡來百年記念展覽會の折、私の依頼により

Würzburg の案内記を出品された事を茲に乍序附記して置きたい。尤もこの事は當時印刷の出品目錄に記載して置いた。

私はこの大學の歴史 (Geschichte der Universität Würzburg. Im Auftrage des K. Akademischen Senates verfasst von Dr. Franz X. von Wegele, Würzburg 1882.) を所藏して居るから、それに載せる Errichtung einer Statistischen Fakultät an der Universität Würzburg の記事に興味を持つたがそれだけでは論文にはならぬ。それに記する Prof. Ambros Rau は財政學者として有名な Karl Heinrich Rau (1792—1870) ではなく。

私は經濟學者で又財政學者であつた故グスタフ・コーン教授 (Gustav Cohn) の舊藏書の一部を買求めた。それにより私は曾て一論文「牛津大學經濟學教授候補者としての W. J. アッシュレー」(W. J. Ashley as a Candidate for the Drummond Professorship of Political Economy in the University of Oxford) を草して昭和六年五月發行「社會經濟史學」第一卷第一號に寄せた。それと同様にコーン教授舊藏書中珍しき經濟特に財政に關する著書論文の一部を考證せんかとも思つた。

私は三月十五日午前神戸博士を京都帝國大學經濟學部研究室に訪ひ右の考へに就ても同教授の意見を問ひ又京大圖書館の藏書を調べた。尙又上京して東京商科大學附屬圖書館のメンガー文庫及東京帝國大學經濟學部大内教授の紹介と助手神戸正一氏 (神戸博士令息) の御援助を得て同經濟學部の藏書を檢した。

しかし結局表題の如き題下にて神戸博士還曆記念論文を草する事に決した。尤も一方に其意嚮を私が有せし事は神戸博士にも面會の折話した。此種の研究の必要とそれに對する興味は私は早くより有して居つた。

私は昭和三年十二月長崎高等商業學校研究館發行「經營學講演集」收錄拙稿『鐵道經濟に關する文獻の經濟學史的研究』に於て鐵道經濟に關する研究中學術的價值あり永久性を有つて居る文獻中經濟學史に名を留め又留めんとしつゝある著名なる學者に依てなされたる研究に就て考察した。又經濟學史上所謂如何なる學派に屬する人々が鐵道經濟中如何なる方面に研究した乎と云ふ事を攻究した。茲には經濟學史特に財政學史に其名を留め又留めんとしつゝある著名なる學者に依てなされた交通特に鐵道經濟に關する研究に就て更に考察し、前に發表した拙稿の足らざる處を補ひたいと思ふ。

私は又昭和五年十月發行日本經營學會編纂經營學論集第四輯掲載の拙稿『鐵道の國民經濟上の特質を論じ、鐵道の經營主義及鐵道制度に及ぶ』中の第一節鐵道の國民經濟上の特質として、(一)資本集中の性質、(二)獨占的性質の次に(三)公共的性質(四)統一的性質等を掲げ第二節鐵道の經營主義として第一 無償主義、第二手數料主義、第三 收益主義を舉げワグネル (Adolf Wagner) ザックス (Emil Sax) 等の經濟學者にして財政學者たりし大學者又獨逸ライプチヒ大學教授ブルノ・モル (Bruno Moll) がシャント教授七十五歲祝賀論文集に寄せたる論文を引用し Prof. Dr. Max Fleischmann 氏編纂獨逸國法及び行政法辭典等を參考し第三節鐵道制度の部に澳國の Eugen von Philippovich (1858-1917) の説又第四節結語の終に獨逸經濟學舊歷史學派の創立者故 Wilhelm Roscher の説を引用して結んで置いた。其内にも着眼して置いた如く交通論鐵道 論は財政學上又行政法と交渉がある。私は以下前に發表せし論文の不足を補ひ又は論及して置かなかつた處を追加して述べたいと思ふ。

第二節 鐵道布設以前の時代 (Pre-railway age)

鐵道布設以前の時代 (Pre-railway age) に交通の重要を認めし學者に就ては、既に拙稿鐵道經濟に關する文獻の經濟學史的研究』に英國の哲學者サ、フランシス・ベーコン (Sir Francis Bacon) の句を引用して略述して置いた。

(附註) サ・フランシス・ベーコンに就て彼が Member of the East India Company たりし事其他彼と日本との關係等に就て新刊の拙著「日英交通史之研究」自序、第一篇日英交通史概觀第十一章、第二編日英交通史料(Ⅲ)、第三編第二章第三節ジョン・セーリスとフランシス・ベーコン等の部に述べて置いた。

スミス時代の交通方法の技術的要素たる道路 (Roads) 運河 (Canals) 等に就てスミスは重きを置いて居つた事等を彼の名著 *Wealth of Nations* に依て立證する事は別の論文に譲りたい。私はスミスが道路及運河等に就て重きを置いて居た事は既に前論文に *The Economics of Road Transport*, By K. G. Fenelon を引用して一言して置いたが、スミスの財政學的研究に就ては財政學者にあらざる私の如きも特に近來其研究の重要を痛感して來た。スミスと當時の實際政治財政、又實際政治家との關係は經濟學史の研究に志すものゝ研究を要する問題である。

(附註) 井藤半彌氏稿租稅原則論の諸問題(福田博士追憶論文集所載)

其他スミスの財政論を純學理的に取扱はんとする學者も多くあるが私は彼の著書 *Wealth of Nations* を a handbook for the Statesman と見る事に注意すべきであると思ふ。

Lectures on the Industrial Revolution, By the Late Arnold Toynbee, VII The Mercantile System and Adam Smith
It was because Adam Smith examined in detail the actual conditions of the age, and wrote a handbook for the statesman

and not merely as Turgot did, a systematised treatise for the philosopher, that he appealed so strongly to the practical men of his time, who, with Pitt, praised his extensive knowledge of detail, as well as 'the depth of his philosophical research.'

尙 Life of Adam Smith, By John Rae 其他長崎高商研究館年報「商業と經濟」第五年第二冊所載拙稿アダム・スミスの生涯及其著作(三)參照。

第三節 獨逸

(1)經濟學史に其名を留めて居る人で鐵道に就て最も早く書き又鐵道敷設に盡力した人は歴史派經濟學の先驅者であつた、フリートドリヒ・リスト (Friedrich List) (1789—1846) である。其事を私は既に前稿「鐵道經濟に関する文獻の經濟學史的研究」に略述して置いた。リストに就ては其後文獻の出版され又入手する事が出来たものもあるから補充改稿を要するが今茲にリストだけの事を長く論ずる事が論文の性質上出来ないから之は他の機會に譲りたい。たゞ重要なる二三の文獻を左に掲げて置くに止めたい。

Friedrich List : Schriften, Reden, Briefen, 1927-1935. ㄅㄆㄇ Band III. Im Auftrag der Friedrich List-Gesellschaft E. V. mit Unterstützung der Deutschen Akademie und der Notgemeinschaft der Deutschen Wissenschaft. Herausgegeben von Erwin V. Beckerath / Karl Goesser, Friedrich Lenz / William Notz, Edgar Salin / Artur Sommer.

Friedrich List : Schriften zum Verkehrswesen. Zweiter Teil, Textnachlese und Kommentar. Herausgegeben und

bearbeitet von Alfred v. der Leyen, Alfred Genert und Berta Meyer.

右リストの論文、演説及書簡集の編纂者の一人である Friedrich Lenz 氏は別に左のリストの小品文集を出版して居る。Friedrich Lists Kleinere Schriften, hrsg. von Friedrich Lenz, Tl. 1, Jena 1926.

又私の獨逸留學時代の恩師であつた故 Alfred v. der Leyen 先生は前掲のリストの論文、演説及書簡中交通關係のものの編纂に關係された外に其多年主幹された Archiv für Eisenbahnwesen, 1931. Heft 5. に Friedrich List der Vorkämpfer des Deutschen Eisenbahnwesens. Ein Beitrag zur Jugendgeschichte des Deutschen Eisenbahnwesens を寄せて居られる。

(附註) 邦文にては昭和十二年四月發行大阪商科大学經濟學雜誌、第一卷、第一號所載富永祐治氏稿『交通政策論者としてのリスト』参照。

Edgar Salin 著 Geschichte der Volkswirtschaftslehre, Berlin 1929. に掲ぐるリスト評は今茲に引用を省略し、次に英國の學者のリスト論を紹介したい。

英國に於ける交通論の新進の學者 K. G. Fenelon 氏 (Director, Department of Industrial Administration, College of Technology, Manchester, and Lecturer on Industrial Administration, Manchester University) はリストに就て次の如く書いて居る。

Previously Germany had made great strides in the development of her own internal railway system, a project which the eminent economist, Friedrich List, had strenuously advocated as early as 1833. Treitschke boasted, though perhaps with some exaggeration, that 'It was the railway which first dragged the nation from its economic stagnation: they ended what

the Zollverein had only begun; with such power did they break in upon all the old habits of life that already in the forties the aspect of Germany was completely changed.'

ヘネロ氏は J. H. Clapham 氏の Economic Development of France and Germany, p.150 を引用したものであるが、この英國ケンブリッジ大學經濟史教授 J. H. Clapham 氏の近著 An Economic History of Modern Britain, Cambridge, 1932 を檢するに、其 p. 242 p. 251 にリストの事が書いてある。

英國經濟學者にしてアダム・スミス研究家として著名なりしエヂンバラ大學教授故 J. Shield Nicholson 氏の著述經濟原論にリストとスミスを比較して次の如く論じてある。

List may be wrong in his interpretation of history, as he was certainly wrong in overlooking the intense patriotism of Adam Smith; but no writer has presented the case for protection with such vigour and success, and what has been abandoned by so eminent a supporter of protection is not likely to receive much support from other economist (Principles of Political Economy, By J. Shield Nicholson, Vol. III. Book V. Chapter XIV. Free Trade and Protection. p. 368).

同じくニコルソン教授は他の著述にスミスの帝國主義を論じ、スミスは Nationalist であつてリストは却て Cosmopolitan であると述べ、次の如く説いて居る。

If the two men are to be named by these two names, then it is Adam Smith who must be ranked as the nationalist and List as the cosmopolitan. List had apparently taken his views of Adam Smith not from the original sources but from the "school" and indeed it is to the "school", is quite irrelevant as applied to the real Adam Smith. The nationalism of Adam Smith is so important that it is best treated in a separate chapter. (A Project of Empire, By J. Shield Nicholson, Chapter I. § 3. Humanist and Nationalist pp. 5-6)

英國ケンブリッジ大學經濟學教授 A. G. Pigou 氏の著述「財政研究」(A Study in Public Finance) に、リスト

の保護稅論が其第二百二十頁、二百二十一頁、二百二十二頁に互り論じてある。リストの保護稅論を英米の財政學者は多少其著述に論じ居る事は注意すべきである。

更に轉じて米國の經濟學者にして財政學者たる著名なる學者の説を検するに、リストの The "infant industry" argument に就て米國の經濟學者にして又財政學者である Edwin R. A. Seligman 著 Principles of Economics, Chapter XXXII, International Trade, § 214 Argument for Protection の部に次の如く書いてある。

Although in its theoretic formulation usually ascribed to Friedrich List, it is found substantially in Alexander Hamilton's celebrated Report on Manufactures in the last decade of the eighteenth century, and more fully in the work of Daniel Raymond with which List had become acquainted during his sojourn in America.

リストの保護論に就ては The Science of Finance, By Henry Carter Adams, N. Y. 1912, pp. 415-16. リストの Protective duty に就ての所論は The Science of Public Finance By, G. Findlay Shirras, London 1924, Chapter XXVI, Custom Duties p. 352 にも紹介してある。

英領印度の財政學者 G. Findlay Shirras 氏著財政學 (The Science of Public Finance) にも關稅の部に保護關稅 (Protective duty) に就てリストの著述の英譯 The National System of Political Economy p. 117 が引用してある。

かく英米流の財政學書にリストの説が引用してある。獨逸の財政學書にても、例へばロツシエル氏著財政學 (System der Finanzwissenschaft. Stuttgart 1901) にはリストの事が書いてある。(同書第八頁及第百〇二頁參照)

(附註) リストの著述 Das Nationale System der Politischen Oekonomie に就ては東北帝國大學法文學部十周年記念經濟論集

所載宇野弘藏氏稿フリードリヒ・リストの『經濟學』——『經濟學の國民的體系』——参照、但しリストの思想を研究するには獨逸的文獻のみでなく、英米の優れたる學者の批判を參考する事も必要であると思ふ。メミス其他英米人の思想と對比する場合に、特に其事を感ずる。私が先にニコルソン、セリグマン等の學者の所説を引用したのも、一つにはそれが爲めである。

尙 Weltwirtschaftliches Archiv, 21 Band (1925 I) 所載 Die Politische Ökonomie und Friedrich List, Von Prof. F. Ienz の外に F. List in Amerika, Von Dr. W. Notz 参照。

(附註) リストと獨逸の鐵道に就つて Die Deutsche Eisenbahn im Spiegel Ihrer Zeit, vornehmlich der Literatur und Presse, aus Anlass der Internationalen Presseausstellung in Köln 1928 (Pressa), dargestellt von Fritz Schliebusch, Köln 1928. 2. 一冊書つてある。

(附註) 交通論の參考文獻として Johann Heinrich von Thünen (1783—1850) 著「孤立國家」(Der isolierte Staat in Beziehung auf Landwirtschaft und Nationalökonomie) スクラン・ベトナム・ヘンリッ・ヘンマン (Herman Heinrich Gossen) (1810—1858) 著 „Entwicklung der Gesetze des Menschlichen Verkehrs und der daraus fließenden Regeln für Menschliches Handeln“ を擧げて私は前稿『鐵道經濟に關する文獻の經濟學史的研究』中に述べて置いたが其等は鐵道經濟の直接的參考文獻でなく、又本論に論及する必要があるから茲には省く。

(2) 獨逸の經濟學者にして財政學者たりし Karl Heinrich Rau (1792—1870) の著述、財政學及び財政學者としての財政學史上の彼の地位に就ては、G. Cohn 著 System der Nationalökonomie 第二卷第二章財政學の發達——官房學(内務學)(Kameralwissenschaft)と財政學第十一節の部に書つてありコーンの説を引用して Handbuch der Finanzwissenschaft, Erster Band, 8. 十九世紀より現在に至る獨逸財政學史中に Franz Meisel 氏が書いて居り、又其他多くの内外の財政學書に説いてあるから今更私の論する必要はない。たゞ彼は財政學を獨立の學問とした學者中の第一人者であると稱せられて居る事を一言するに止めたい。

而して私が前稿『鐵道經濟に關する文獻の經濟學史的研究』中にも指摘せし如く彼の著述 Grundsätze der Volks-

wirtschaftspolitik mit anhaltender Rücksicht auf bestehende Staatseinrichtungen, von Dr. Karl Heinrich Rau, Dritte Ausgabe, Heidelberg 1844 中に 2. Buch, Beförderung der Vertheilung des Güterzeugnisses, 3. Hauptstück, Erleichterung d. Wassersendungen. Versendung zu Lande

{	A. Kunststrassen
{	B. Eisenbahnen
{	C. Brücken

とある。右の如く A. 人工道路、B. 鐵道、C. 橋梁と同一列に擧げたのは交通論其後の發達今日の交通論から見て何と評すべき乎。

以上引用した書物は Lehrbuch der Politischen Oekonomie Von Dr. Karl Heinrich Rau の第二卷 (Zweiter Band) 國民經濟政策原理に外ならない。さてその第四百八十五頁以下に I. Versendung zu Lande. A. Kunststrassen とある人工道路は今日の交通論にては運送方法の技術的要素の第一の要素通路 (Der Weg) に過ぎない。これと異り B. Eisenbahnen 鐵道は他の技術的要素動力 (die bewegende Kraft) 及び搭載具 (Fahrzeug) を結合したる一つの組織體 (Organismus, Organism) であり、かゝる運送方法 (Transportmittel) 又は交通方法 (Verkehrsmittel) を運送機關 (Transportanstalt) 又は交通機關 (Verkehrsanstalt) と稱する。

ラウ (Rau) の所謂 C. Brücken (橋梁) は道路の一部に過ぎない鐵道とは同一列に置くべきものでないと私は信ずる。

(附註) 小島昌太郎博士は交通機關を獨逸語にて Verkehrsmittel, Verkehrsanstalt とし運送機關を英語 Means of Conveyance; 獨逸語 Transportmittel、通信機關を英語 Means of Communication; 獨逸語 Kommunikationsmittel と解し、又交通機關には靜的と動的の二種ありとして、道路橋梁は靜的交通機關であり、鐵道列車は人力車自轉車自動車等と同じく動的交通機關と解して居らるゝものゝ如くである。(昭和五年發行日本評論社版同教授著交通經濟論五十五頁及五十六頁其他改造社版經濟

學全集經濟政策(下)收錄交通概論第三章二、交通機關の種類と題する内に交通機關 (Verkehrsmittel) 運送機關 (Transportmittel) 通信機關 (Kommunikationsmittel) とし交通機關には靜的と動的とあり前者を交通固定設備といひ後者を交通移動機關といふと説明してある。

次にラウ (Rau) 著經濟學教科書第三卷即ち財政學は我校所藏のものによれば次の如くである。

Lehrbuch der Politischen Oekonomie Von Dr. Karl Heinrich Rau, Dritter Band, erste Abtheilung. Finanzwissenschaft, erste Hälfte. Vierte vermehrte und verbesserte Ausgabe, Leipzig und Heidelberg 1859.

而して財政學第二部の改訂第四版は千八百六十年出版である。

このラウの財政論中國有鐵道 (Staatseisenbahnen.) に就ては財政學原理 (Grundsätze der Finanzwissenschaft) の第一部 (Erste Abtheilung) 第二編 (2. Buch) 國家歲入 II Abschnitt 8. Hauptstück, Staatseisenbahnen に論じてある。郵便に就ては其前に説いてある。即ちこのラウの財政學原理の第一部第二編、國家歲入 III. Abschnitt, 7. Hauptstück Post-Regel 第11頁〇五行に郵便 (Das Postwesen) に就てラウは次の如く述べて居る。

Das Postwesen, eine der einflussreichsten Anstalten der neueren Zeit (Grundsätze der Finanzwissenschaft von K. H. Rau 第四版 Erste Abtheilung. S. 291)。

右の如くラウが Das Postwesen 及びその Anstalten と言つて居るのは今日の交通論に所謂通信機關 (Kommunikationsanstalt) として郵便を有する Anstalten と言ふものと一致して正しい。即ち通信機關としての郵便は Postanstalt である。鐵道が Transportanstalt, であると同様にその組織體 (Organismus, Organism) である。

(3) 第三にローレンツ、フォン・シタイン Lorenz von Stein (1815—1890) に就て述べたい。同氏著財政學教科

書 (Lehrbuch der Finanzwissenschaft) 改訂第五版はライプチヒにて千八百八十五年より千八百八十六年に互り出版されて居る。これは私が我長崎高商圖書館に備付けたものにより明である。然るに Gustav Cohn 氏 (1840—1919) は其著財政學第十八頁に Lorenz von Stein の „Lehrbuch der Finanzwissenschaft“ (1860; 5. neubearbeitete Auflage, 1884—1886) と書いて、第五版が千八百八十四年より千八百八十六年に互り出版されたるが如く書いて居るのは誤である。尤も第一卷の序文は千八百八十四年の十月初旬に書いてある。故にこれは學問的に大なる問題ではない。而してコーン氏がローレンツ・フォン・シュタイン氏の財政學を財政學史上ラウ氏のそれと比較し第二新しき財政學 (II. Die Neuere Finanzwissenschaft) の最初に論じたる處は興味津々たるものがある。

ローレンツ・フォン・シュタインは獨り財政學者たるに止まらない、否彼の主著は行政法 (Verwaltungslehre) である。彼は其著行政法を千八百六十八年より出版して居るが、彼の優れたる能力を以てして彼は其完成に至らずして終つたとコーンは其著經濟學大系 (System der Nationalökonomie) の第一卷中の經濟學史の部に書いて居る。グスタフ・コーン氏とローレンツ・フォン・シュタインとの交渉に就てはコーンの出世作「英國鐵道政策之研究」(Untersuchung über die Englische Eisenbahnpolitik.) 第二卷英國鐵道 政策批判論 (Zur Beurtheilung der Englischen Eisenbahnpolitik) の自序 (Vorwort) 中の一言せし處の如くである。即ち次の如し。

Seit Abschluss des Manuscripts (Ende Juli) ist das Blaubuch über die Unfälle des Jahres 1873 erschienen—zu spät, um noch benutzt werden zu können. Ebenfalls erst in den letzten, in welchen Lorenz von Stein¹⁾ den ersten Band meiner „Untersuchungen“ besprochen hat; ich hoffe, darauf, insbesondere auf seine Ansichten über die „Selbstverwaltung der Eisenbahnen“, demächst an anderer Stelle zurückzukommen.

Trübingen, 20. August 1874.

G. Cohn

1) Centralblatt für Eisenbahnen und Dampfschiffahrt der Österreichisch-Ungarischen Monarchie, Jahrg. 1874, Nr. 74, 77, 83, 86, 89, 92.

シュタインは思想的にヘーゲルの影響を受け居る事は、柏林大學に於けるシュモラーの後繼者たりし故ハインリヒ・ヘルクナー氏 (Heinrich Herker) がルヨ・ブレンタノの古稀祝賀論文集 (Festschrift für Lujo Brentano zum Siebzigsten Geburtstag) 中に寄せたる論文經濟學史 (Die Geschichte der Nationalökonomie) に指摘した處である。今ヘルクナーの論文中の一節を引用すれば次の如くである。

Im Baune Hegelscher Ideen standen nicht nur Marx, Engels und Lassalle, sondern auch Lorenz v. Stein und Schäffle. (同論文集第二百二十四頁參照)

シュタインはキール及イエナ大學に哲學及法律學を學び、法律學にてドクトールとなり巴里に遊學した。彼が現代佛國に於ける社會主義及共產主義 (Der sozialismus und Kommunismus des heutigen Frankreichs: Ein Beitrag zur Zeitgeschichte) を千八百四十二年に著したるもそれが爲めである。彼は經濟學、統計學、國家學、社會學的研究等實に多方面に互り著書論文を發表して居る、國家學辭典等に掲ぐるものを見るも枚舉に遑なき程である。

邦文のローレンツ、フォン、シュタイン論にて最も私の興味を感じた論文は、慶應義塾大學教授加田哲二氏が曾て三田哲學會編「哲學」第三輯に寄せられた論文「社會學者としてのローレンツ・フォン・シュタイン」——シュタイン研究序論——である。但しシュタインが我國との交渉を其内に論じて居られぬのは遺憾であつた。我憲法史上

故伊藤公其他と彼との關係は實に重要である。私は昭和六年内地留學の爲め上京中不圖も東京帝室博物館にて宮内省所藏(?)の彼の立派なる肖像を見た。私は其由來を知りたいと思つて居る。

さて彼の行政法を我國に傳へたる明治二十年十一月刊行「行政學」の卷中(元老院藏版、渡邊廉吉氏翻譯)に

「第三章内政及交通ノ制第一項運輸ノ制(意旨及主義)第一節運輸ノ方便(Verkehrsmittel) 第二節交通施設(Verkehrsanstalten) コノ交通施設ニ三體アリ郵便、鐵道、及電信是ヲナリ云々」

とある。即ち今日の交通論(Verkehrswesen)、交通政策(Verkehrspolitik)に所謂交通方法(Verkehrsmittel)及交通機關(Verkehrsanstalt)なる用語がシュタインの行政法中に現はれて居り、それを明治二十年に既に我國に翻譯して居るのは注意すべきである。

シュタインは彼の行政法及財政學中に鐵道を論じたるのみならず、鐵道に就て専門的の著述論文がある。[

v. Stein 著 Zur Eisenbahnbildung, Wien 1872. 2就つた Jahrbuch für Gesetzgebung, Verwaltung und Rechtspflege des Deutschen Reichs herausgegeben von Dr. Franz von Holtzendorf, Zweiter Jahrgang, Zweite Hälfte. Leipzig 1873. 掲載獨逸帝國の交通機關、鐵道、郵便及電信(VII. Die Verkehrsanstalten des Reichs, Eisenbahnen, Post und Telegraphie) 2題と 2 Geh. Postrath Dr. Fischer in Berlin の論文の中に引用されて居る。

(同誌第二百二十頁參照)

Handbuch der Politischen Oekonomie. herausgegeben von Dr. Gustav Schönberg, Zweiter Bd. Tübingen 1882.

III. Die Erwerbsinkünfte des Staats von, von H. von Scheel S.54 Transportunternehmungen の題に 2 頁へ Beiträge

zur Theorie und Geschichte der Transportmittel bei L. v. Stein, Handbuch der Verwaltungslehre, 2. Aufl., Stuttgart 1876, S. 361 ff. Roscher, S., III. Kap. 10.

と。これを以て觀るも交通論、鐵道論を學術的に研究するものはシュタインの著述を看過する事は出来ない。又現在及將來の研究もシュタインの如く財政學の外に行政法學的研究は交通論鐵道論に必要である。方法論として茲に一言して置きたい。

(4) ウエルヘルム・ロッシェル Wilhelm Georg Friedrich Roscher (1817—1894) の財政學は彼の著述「國民經濟學大系」の第四卷である。即ち次の如くである。System der Volkswirtschaft, Bd. IV: System der Finanzwissenschaft, ebenda 1886, dasselbe, 5. Aufl. bearbeit. von O. Gerlach, ebenda 1901.

而してこの書の内に鐵道に就て Eisenbahnen, Eisenbahnfahrgaststeuer, Eisenbahnsteuer 等の項目に卷末索引に示す如く書いてある。

舊歴史學派に屬し獨逸經濟學歴史學派の創立者たるロッシェルの國民經濟學大系第三卷商工經濟論中鐵道に就て論じ鐵道制度に關するロッシェルの説は拙稿「鐵道經濟に關する文獻の經濟學史的研究」及び拙稿「鐵道の國民經濟上の特質を論じ、鐵道の經營主義及鐵道制度に及ぶ」第四節結語中にも引用論述して置いたから茲には繰返さなう。

System der Finanzwissenschaft von Wilhelm Roscher, Fünfte vermehrte Auflage bearbeitet von Otto Gerlach, Erster Halbband, Stuttgart 1901. の第十九頁に記する次の句は茲に引用するを禁じ難き一節である。

財政學者の鐵道經濟に關する研究論著に就きて

Deutschland ist gegenwärtig in ähnlicher Weise Hauptsitz der Finanzwissenschaft, wie zu Anfang unsers Jahrhunderts die allgemeine Volkswirtschaftslehre ihren Hauptsitz in Grossbritannien hatte. Den Meisterwerken von Rau, L. von Stein, Ad. Wagner, Schäffle hatte das Ausland [bis in die neuere Zeit, wo eine Wandlung bemerkbar ist,] eine ebenbürtige Leistung wohl nur in P. Leroy-Beaulieu's Science des Finances [1877, 6. Aufl. 1899 2 vols] gegenüber zu stellen.

(附註) 改造社版經濟學全集第二十卷財政學(下)所載阿部賢一博士稿財政學史第三十八頁參照

私は既にラウ、シュタインに就て述べた故にシェフレ (Schäffle) に就て述べ更にワグナーに及びたい。

(附註) 前に述べたローレンツ・フォン・シュタインの財政學が歴史學派とヘーゲル哲學との影響を受けて居る事に就ては Wesen und Formen der Finanzwirtschaft von Dr. Horst Jecht, Jena 1928 中に書いてある。而してこの Jecht の書物は前に昭和八年二月發行、國民經濟雜誌第五十四卷第二號所載山下覺太郎氏稿「イエヒト・財政の場所」に於て後に昭和十一年六月發行、經濟論叢第四十二卷第六號所載島恭彦氏稿「シュタインの政治經濟學批判について」中に紹介してある。

しかし私にとりては新歴史派經濟學の泰斗故シモラー先生 (Gustav von Schmoller) (1838—1917) が年若き頃發表されたシュタイン論 Lorenz Von Stein (1866) が興味深い故に推賞したい。(Zur Litteraturgeschichte der Staats- und Sozialwissenschaften von Gustav Schmoller, Leipzig. 1888 參照。此シモラー先生の文集は舊歴史派經濟學の泰斗ウエルケルム、ロッシェルのドクトール學位受領五十周年記念として獻呈したものである。)

(5) アルベルト・シェフン即ち Albert Eberhard Friedrich Schäffle (1831—1903) の主著の1つは „Die Quintessenz des Sozialismus“ と共に Bau und Leben des Sozialen Körpers, 4 Teile, Tübingen 1875—78. であるが、彼の財政學的著述には次の如きものがある。即ち Die Grundsätze der Steuerpolitik und die Schwebenden Finanzfragen Deutschlands und Oesterreichs, Tübingen 1880. Die Steuern, 2 Bde, Leipzig 1895—97. (A. w. d. T.: Hand- und Lehrbuch der Staatswissenschaften, hrzg. v. K. Frankenstein, II. Abt. Finanzwissenschaft, Bd. II. u. III). 等である。

而して彼の名著 Das Gesellschaftliche System der Menschlichen Wirthschaft : ein Lehr- und Handbuch der Ganzen Politischen Oekonomie, einschliesslich der Volkswirtschaftspolitik und Staatswirthschaft, Dritte, durchaus neubearbeitete Auflage in Zwei Bänden. Tübingen, 1873. には鐵道交通に関する多くの参考となる意見が記述されて居る。彼と彼の著述に就てシェモラー先生の評論は前述の文集中に收録されて居る。

(6) アドルフ・ワグナー (Adolf Wagner) (1835—1917) は Lehr- und Handbuch der Politischen Oekonomie を A. Buchenberger, K. Bücher 及 H. Dietzel 等と相結んで編纂し其第四大部門 (Vierte Hauptabtheilung) として財政學 (Finanzwissenschaft) を擔當し、その第一部 (Erster Theil) Einleitung, Ordnung der Finanzwirtschaft, Finanzbedarf, Privaterwerb 中の Fünfter Hauptabschnitt. Communications- und Transportwesen oder Verkehrswesen (im engeren Sinne), besonders Eisenbahnen. は財政學と交通論特に鐵道論の關係の重要な事を示す一篇である。特に其内に掲ぐる参考文獻書目の如き前述の Rau, 經濟政策論文 Schaffle, Nationalök. 2. A. S. 262—269, mit besonderer Rücksicht auf Eisenbahnen, aber mit manchen treffl. Erörterungen über Verkehrswesen im Allgemeinen. 更に又ローレンツ・シェタインの行政法 (Verwaltungslehre) を掲ぐる等精細を極めて居る。又他の部分に Held, Sax, Cohn 等の經濟學者の著書論文を引用し、此等經濟學の交通特に鐵道經濟に関する文獻を示して居る。

ワグナーの交通論に對する貢獻は、其後年の著作 Theoretische Sozialökonomik oder Allgemeine und theoretische Volkswirtschaftslehre, Zweite Abteilung, Erster Band : Kommunikations- und Transportwesen. Leipzig 1909. 即ち Sozialökonomische Theorie des Kommunikations- und Transportwesens von Adolph Wagner, Leipzig

1909. である。これは前著述財政學中のものを基礎として書いたものと思はれる。從てよく似た點もある。

私が先年コーン教授舊藏書中の一部を丸善を経て買求めた。それと同時に獨逸フライブルク (Freiburg i. Br.) 大學の教授であつた歴史家故フオン・ベロー (Georg von Below) (1858—1927) の藏書が幾分混じて居る様である。しかし次に掲ぐるラーゲナーの小著はコーン教授の舊藏書であると思はれる。

Die Communalsteuerfrage. Ausarbeitung eines Referats im Verein für Socialpolitik. Mit einem Nachwort: Der Verein für Socialpolitik und seine Verbindung mit dem Volkswirtschaftlichen Congress. Von Adolph Wagner. Leipzig und Heidelberg. 1878.

而してこの冊子の裏面に Von demselben Verfasser sind in gleichen Verlage erschienen:

- 1) Allgemeine oder theoretische Volkswirtschaftslehre 1. Theil, Grundlegung. Leipzig u. Heidelberg 1876.
- 2) Finanzwissenschaft. 1. Theil. Einleitung. Ordnung der Finanzwirtschaft. Finanzbedarf. Privaterwerb. 2. wesentlich umgestaltete und vermehrte Ausgabe. Leipzig u. Heidelberg 1877. Preis 12 Mark.

Diese beiden Bände bilden den ersten und fünften Theil der vollständigen Neubearbeitung des Rau'schen Lehrbuchs der politischen Oekonomie durch die Herren Professoren Dr. A. Wagner und Dr. E. Nasse. Mit den übrigen Bänden des Werks sind die Herren Verfasser beschäftigt.

Aus der zweiten Ausgabe der Finanzwissenschaft erschien der Abschnitt über die Eisenbahnen gleichzeitig besonders unter dem Titel:

Das Eisenbahnwesen als Glied des Verkehrswesens, insbesondere die Staatsbahnen. Abriss einer Eisenbahn-Politik und-Oekonomik. Seipzig u. Heidelberg 1877. Preis 3 Mark 60 Pf. Leipzig, im November 1877. C. F. Winter'sche Verlagshandlung.

右の内最後の Das Eisenbahnwesen………が鐵道論の文獻として參考となるから本論文に一言して置く。

さて前に掲げた Adolph Wagner (1835—1917) 著理論社會經濟學 (Theoretische Sozialökonomik) 別名國民經濟學概論 (Allgemeine und theoretische Volkswirtschaftslehre) 第二部 (Zweite Abteilung) 第一卷通信及運輸 (Erster Band: Kommunikations und Transportwesen) 別名通信及運輸社會經濟的理論 (Sozialökonomische Theorie des Kommunikations und Transportwesens) にも通信及運輸の技術的根據及要素若くは技術的法則 (Die technischen Grundlagen u. Bedingungsmomente oder das technische Gesetz des Kommunikations- u. Transportwesens) として第一要素として通路 (Der Weg)、第二要素として搭載具又は運送具 (das Mittel, Fahrzeug)、第三要素動力 (die bewegende Kraft) を掲げ、更に第四として Aus der Kombination dieser drei Momente entsteht dann die Verkehrseinrichtung zur Durchführung der Ortsveränderung を擧げて居る。而して通路に自然及人工通路 (Natur-u. Kunstwege) の存する事を述べて居る。Rau の經濟學書中の一節に鐵道 (Eisenbahnen) を人工道路 (Kunststrassen) と一列に論じてある事は前に紹介したが、それと比較すれば Wagner の説は進んで居る。しかし Rau は經濟學書中最も早く鐵道を其の System 中に加へて論じた先驅者ではあるまいか。財政學に於てのみならず交通論、鐵道論に於てもラウはワグナーに影響し其先驅者ではあるまい乎。

アドルフ・ワグナー Adolf Wagner (1835—1917) に就ては曾て彼が八十三歳の高齡を以て永眠せし折其追悼の辭 (Obituary) を *Economic Journal*, December, 1917 に寄せたる M. Epstein は次の如く述べて居る。

Indeed, Wagner inspired, and stoutly supported, the whole of Bismarck's economic programme—social insurance, protective tariffs, railway nationalisation, and the rest.

即ちワグナーは實際の鐵道政策にも貢獻して居る。

(附註) ワグナーと同年に生れ七年早く永眠したノイマン (Friedrich Julius von Neumann) (1835—1910) は主として財政學の研究に貢獻した學者である。其中の

Ertragssteuern oder Persönliche Steuern vom Einkommen und Vermögen? Ein Wort zur Steuerreform, Von Dr. Friedrich Julius Neumann, Ordeutl. Professor der Cameralwissenschaften in Freiburg i. B., Freiburg i. Br., 1876.

を私はコーン教授舊藏書中に見出した(この書は東京商大メンガー文庫にも又京大圖書館にもある)。しかしこれは鐵道交通論とは關係がない。

又私はコーン舊藏書ではないが別に彼の經濟原論 (*Grundlagen der Volkswirtschaftslehre*) Erste Abteilung, Tübingen 1889 を所有して居る(この書は京大圖書館にもある)。しかしそれには鐵道論はない。尤も Gossen の説を引用し Rau, Schaffle, Lotz, Hermann 等の學者の説を引用し交通理論には關係がある。この書はロツシエルがドクトールの學位を受領してより五十年の記念祝賀に其弟子として獻じたものであるから茲に引用して置く。

(7) クニース。獨逸舊歴史派經濟學の泰斗としてロツシエルと共に高名のカール・クニース (Karl Gustav Adolf Knies) (1821—1898) は所謂財政學者でないが鐵道經濟交通經濟の研究に早く大なる貢獻をなした學者であるが、

既に前稿「鐵道經濟に關する文獻の經濟學史的研究」に詳述したから茲には省きたい。本稿は豫定よりも既に多くの頁數を費したから其點からもやむを得ず略する事とする。

たゞカール・クニースは次の如き財政學的講演をなして居る事を茲に注意して置く。

Rede zum Geburtsteste des höchstseligen Grossherzogs Karl Friedrich von Baden und zum akademischen Preisvertheilung am 22. November 1871 von Dr. Carl Knies, Grossh. Geheimen Rath und ordentl. Professor der Staatswissenschaften, derauligem Prorektor. Finanzpolitische Frörderungen. Heidelberg 1871.

右の外に私の所蔵するクニースの論文 Die Dienstleistung des Soldaten und die Mängel der Conseriptionspraxis.

Die Volkswirtschaftlich-finanzielle Frörderung Von Dr. Karl Knies, Ord. Professor der Staatswirtschaft zu Freiburg. Freiburg i. B. 1860. は國民經濟的又財政的に論じたものである。氏は別に Das Moderne Kriegswesen, Berlin 1867 なる講演印刷物も出版して居る。氏の經濟學は世に廣く知れ近く昭和十年九月發行の經濟論叢第四十一卷第三號にも出口勇藏氏稿「カールクニースの國民經濟學」なる論文も發表され、又彼の貨幣信用論 (Gold und Credit) も世に有名で我國にも廣く知られ居る。同じく貨幣及信用に就ては 1) Zur Lehre von Wirtschaftlichen Güterverkehr, vom Geld und vom Credit. Prorektoratsprogramm. Freiburg, 1863.

2) Weltgeld und Weltmünzen, Berlin 1874. 等の小冊子もあり私も所藏して居るが、右の如く貨幣及信用論關係のもの外に鐵道に就て Die Eisenbahnen und ihre Wirkungen, Braunschweig, 1853. 電信に就て Der Telegraph als Verkehrsmittel, Tübingen 1857. 等の著述ある事は比較的知られて居らぬ。

彼が獨立科學としての統計學 (Die Statistik als selbständige Wissenschaft, Cassel, 1850) を著した事は有名である。私は彼の學問的興味の範圍に就て總括的研究の必要を感じるものである。

(8) グスターフ・コーン (Gustav Cohn) (1840—1919) の事は既に前文にも述べ、又同氏の交通經濟鐵道經濟論の研究に就ての貢獻は拙稿「鐵道經濟に關する文獻の經濟學史的研究」中に就べて置いた。

コーン氏著財政學 (System der Finanzwissenschaft) を評して法學博士小川郷太郎氏經濟學博士汐見三郎氏共著財政學には「財政の事實並びに理論の歴史的研究に力を注ぐ最も特色ある財政書である」と評されたが其財政學中獨逸プロイセン鐵道に就ては次の部分に書いてあり參考文獻も引用してある。

System der Finanzwissenschaft. Von Gustav Cohn, Stuttgart, 1869, S. 615, II, Die Preussische Staatsbahnverwaltung, § 442 * Von der Leyen, Die Durchführung des Staatsbahnsystems in Preussen, Schmollers' Jahrbuch, 1883, 493—499.

コーン氏の論文集には次の如きものがある。

Zur Politik des Deutschen Finanz-, Verkehrs- und Verwaltungswesens. Reden und Aufsätze von Gustav Cohn
Stuttgart, 1905.

右に引用した故コーン教授の著述財政學中の第三編第二章 Die Steuergesetzgebung der deutschen Staaten, II Die Preussische Staatsbahnverwaltung, 即ち獨逸國有鐵道行政中に引用された A. von der Leyen 氏の論文により思ひ出すのは故コーン教授と故フォン・デル・ライエン先生との關係である。フォン・デル・ライエン先生は早く

『北米鐵道の財政及交通政策』なる著述を出した人である。

Finanz- und Verkehrspolitik der Nordamerikanischen Eisenbahnen. von Dr. Alfred von der Leyen, Geh. Oberregierungsrath, Vortragender Rath im Ministerium der öffentlichen Arbeiten. Zweite, vollständige umgearbeitete Auflage. Berlin. Verlag von Julius Springer. 1895.

フォン・デル・ライエン先生は (Cohn, Fritsch, Rosenthal, Loening, Hermann, Wiedenfeld 等と共に國家學辭典 (H.W. B.) に、鐵道に關し寄稿を擔當して書して居られる事は、W. Loiz 教授の財政學 (Finanzwissenschaft) 第七百八十四頁に記する通である。

フォン・デル・ライエン先生の鐵道政策の定義其他がモル (Bruno Moil) 教授の財政學 (Lehrbuch der Finanzwissenschaft) に引用されて居る。(同書第二百〇九頁第二百十頁等參照)。フォン・デル・ライエン先生は「ビスマルク公の鐵道政策 (Die Eisenbahnpolitik des Fürsten Bismarck)」なる著述を私が獨逸留學中千九百十四年出版された。

私は獨逸留學早々千九百十二年 (明治四十五年) 五月當時柏林大學名譽教授に新任されたフォン・デル・ライエン先生の御紹介でゲツチンゲン (Göttingen) 大學にコーン先生を御訪ねした事がある。

(附註) 其時コーン先生より新刊早々の The Economic Journal, March, 1912 (Vol. XXII, No. 85) の抜題 'The Increase of Population in Germany By Gustav Cohn, University of Göttingen 其他獨逸文の論文等を頂うた。私は交通政策經濟學の研究を先生並にレキシス (W. Lexis) 先生 (1837-1914) の許に又當地商法の大家 Karl Lehrmann 先生 (ハーゲン教授と

其著書に就ては拙著日英交通史之研究第二編第四編參照)に就て商法中交通に關係ある部分を學ばんかとも思つたが、コーン先生、レキシス先生等の忠告により伯林に留學を繼續する事とした。私が同ゲツチンゲン大學訪問中レキシス先生の大理石肖像の除幕式がゲツチンゲン大學圖書館内にて舉行され、私は幸に其席に列する光榮に浴した。

コーン先生も其席に列せられた。私はレキシス先生に携へし處の先生の商業論(Das Handelswesen)の邦譯を贈つた。それは法學士故岩村茂先生の譯で私が名古屋商業學校にて賞與として頂いたものであつた。レキシス先生は其翻譯をはじめて見たとの事であつた。この翻譯の由來は山崎覺次郎博士から今春上京中承つた。レキシス先生とコーン先生の事は前述のモル教授(小生留學中はキール大學私講師にて交通政策を講じて居られたから私は御訪ねした)から聞いた。(ゲツチンゲン大學は二百年祭を本年六月舉行の由)神戸博士も最初はゲツチンゲン大學にてコーン教授に受學の志が多少あつたが思ひ止まつてWürzburg大學のシャント教授(Georg von Schantz) (1853-1931)に師事されたと私に語られた。それはこの春三月シャント教授の生誕記念日を過ぐる三日即ち十五日の朝私が神戸博士を御訪ねした時であつた。私は神戸博士が第二回の御洋行の折獨逸伯林にて博士に御會した事がある。其際もこれからWürzburgに行き滞在すると申された事を明に記憶して居る。私は神戸博士の京大研究室に掲げてあるシャント教授の年若き頃の立派な肖像を仰ぎ見た。シャント教授の先年の寫眞はFinanzarchiv Begründet Georg Von Schantz Neue Folge Band I Heft 1, Tübingen 1932に掲げられてゐる。

コーン教授とAlfred von der Leyen先生との親密な交友關係に就て私は兩先生より直接聞く處はなかつた。しかしコーン氏の論文集「獨逸財政交通及行政論等の政策論集」(Zur Politik des Deutschen Finanz-, Verkehrs- und Verwaltungswesens, Reden und Aufsätze Von Gustav Cohn, Stuttgart. 1905)にElise von der Leyen Gewidmet. といふElise von der Leyenなる婦人に獻呈されて居る事によりても察する事が出来る。

(附註) コーン教授は一生獨身であつた。しかしコーン教授は獨逸の婦人運動に關するDie Deutsche Frauenbewegung. Eine

Betrachtung über deren Entwicklung und Ziele, Berlin, 1896. なる名著あり。それは

Meiner Schwester Emma Gewidmet

と其姉妹に獻呈してある。

コーン教授と同じくシャント教授も獨身であつた。(昭和七年二月發行經濟論叢第三十四卷第二號所載神戸博士稿「恩師シャント教授を悼む」参照) シャント教授は多くの弟子を持ち七十五歳の誕生日(千九百二十八年三月十二日)に祝賀論文集(Festgabe für Georg Von Schanz)が出版され其巻頭に彼の寫眞が掲げてある。

さて前述の獨逸財政交通及行政論等の政策論文集に收録されて居る VII über Reaktion im Verkehrswesen. 及びそれより前に發表された論文 „Trübsungen über die finanzielle Behandlung der Verkehrsanstalten“ (National-ökonomische Studien, 1886 に收録) „Eisenbahnen, Wasserstrassen und der Preussische Staats Haushalt“ (Zur Geschichte und Politik des Verkehrswesens, 1900. に收録)と相關聯して居る。要するに彼の論文は交通論と財政論との密接なる關係を示すものである。

(附註) 彼の親しかつた Alfred Von der Leyen 先生は私の柏林大學在學時代の恩師であつた。先生は九十歳の高齢に達し其主幹する獨逸鐵道雜誌 Archiv für Eisenbahnwesen, 1934 は Zum 90. Geburtstag von Exzellenz Von der Leyen と題して先生の寫眞を掲げて千九百三十四年六月二十八日の九十回の誕生日を祝賀する辭を陳ねた。然るに先生は同年九月二十五日永眠された。それは同年の Archiv für Eisenbahnwesen 第十二百四十九頁に掲げてある。私は先生の學恩に對してただ僅に Nagasaki, das Einfaltstör für die Eisenbahnen in Japan なる拙稿を Archiv für Eisenbahnwesen, Jahrgang 1931 Heft 2, März-April に掲げまして頂いて其抜刷 (Sonderdruck) を先生に獻じたのみである。神戸博士の如く多くの財政學的論文を著述發表されたのに比すべくもなからず。

財政學者の鐵道經濟に關する研究論著に就きて

(附註) コーン教授が英國に於ける鐵道研究に就いては彼の著述 *Universitätsfragen und Erinnerungen von Gustav Cohn S. 174* 參照。コーンの取引所論の研究に對する多くの論文 *Die Börse und die Spekulation, Berlin, 1868*. 又 *Die auswärtigen Anleihen an der Londoner Börse. Von Gustav Cohn, Prof. in Zürich*. 又彼の財政學論文 *Ein Wort zur Reichsfinanzreform*. 等彼の舊藏書中に私は見出した。

彼の取引所論に對する興味は何故乎、彼の財政、交通に關する興味は何故乎、これ私の大なる興味を持つ問題であるが今は述べない。

(9) 獨逸新歴史學派經濟學の泰斗グスターフ・シュモラー (Gustav von Schmoller) (1838--1917) は、獨逸の財政史の研究に貢獻して居る。(Lotz 氏財政學參照)。所謂財政學者ではないとしても年若を頃 „die Lehre vom Einkommen in ihrem Zusammenhange mit den Grundprinzipien der Steuerlehre“ (*Zeitschrift für die ges. Staatswissenschaft, Bd. 19, S. 1 ff., 1863*) を草して居る事は *Handbuch der Finanzwissenschaft. Erster Band, Meisel, Geschichte der deutschen Finanzwissenschaft in 19. Jahrhundert usw. § 3. S. 258* に記し、又同じくアイゼン氏稿「第十九世紀獨逸財政學史」中に

Der „Ökonomische Historismus“ begnügt sich mit der wahrhaftig nicht historischen Methode der Roscher'schen Finanzwissenschaft; die exakte Schule ehrt die Fortschritte des Steinschen Werkes, Schmollers Urteil über Sax ist im Effekte nicht viel anders wie das Von Böhm-Bawerk. (同書卷二百七十四頁參照)

と書いて居るのは注意すべきである。

シュモラーは交通論の側でも其原論 (*Grundriss der allgemeinen Volkswirtschaftslehre*) には交通の意義に就て

参考とすべき部分もあるが、所謂交通論及鐵道論の研究者ではない。但し交通史の方では参考とすべき論著がある。

(附註) シュモラーの事は社會經濟史學第一卷第一號所載拙稿「牛津大學經濟學教授候補者としての W. J. アンシヤバー」中に詳述して置いた。又彼の永眠の際の Schmoliers Jahrbuch 41. Jahrgang Drittes Heft. München 1917. 及び Economic Journal, Sept. 1917. Obituary: Gustav Schmoller by M. Epstein 等参照。

(10) ルヨ・ブレンタノ (Lujo Brentano) の愛弟子の一人であるシナンヘン大學教授 Walter Lotz 氏に就て彼の財政學書以外交通論に關する著述に就て又ファン・デル・ポルクト (Van der Porght) が財政學の著述の外に交通論其他多くの教科書的著述ある事等も述べねばならぬが、私は前稿に述べたから今は省く。

又柏林大學に於けるワーズナーの後繼者 Hermann Schmucker は交通論的研究には早く貢獻して居る。又財政學的にも併せて早く其名を知られて居るが著書は少ない。

(附註) Weltwirtschaftliche Studien. Vorträge und Aufsätze Von Hermann Schmucker 及び Die finanzielle Behandlung der Binnenwasserstrassen 其他が載せてある。シニーマッセルは獨逸の鐵道國有に就ても Royal Economic Society に論文を寄せて居る (拙稿「鐵道の國民經濟上の特質を論じ鐵道の經營主義及鐵道制度に及ぶ」参照)

私は以上主として獨逸の財政學者交通論者等に就て其相互關係、其著述等に就て各學者を列舉して論じて來たが、未だ盡さざる處が多いけれども、豫定の頁數を超過したから以上にて打切り、奧太利に移らねばならぬ。尤も前述せし學者中 Lorenz von Stein, Arbert Schäffle の如き後年奧國大學の教授となつた。それ故奧太利の部に入れて論ずる人もある。

さて奧太利には奧太利學派の Dr. Emil Sax に就て述べなければならぬ。しかし交通學者として彼に就ては既に前稿「鐵道經濟に關する文獻の經濟學史的研究」中に詳述し又拙稿「鐵道の國民經濟上の特質を論じ、鐵道の經營主義及鐵道制度に及ぶ」中にも屢ミザツクスの名著交通方法 (Die Verkehrsmittel) を引用して置いた。財政學者としての彼に就ては専門家の著述に多く論ぜられて居るから私は茲には述べない。

(11) Eugen von Philippovich (1858—1917) 彼が年若き頃英國に留學せし折の土産としての著作に Die Bank von England im Dienste der Finanzverwaltung (1885) があり、彼は千八百九十三年以降奧國首府 Wien 大學の經濟學及財政學の教授であつたが彼の大著經濟政策には、鐵道交通に關する教科書的敘述の尊重さるべきものがある。

第四節 佛 蘭 西

を述べる筈であつたが、本論文豫定頁數超過の爲め省略した。故 C. Colson 氏は巴里千九百〇五年出版の Les finances (Cours deçon. Politique 第三卷) の著者であるが、交通論の大家である事を一言し、且つ交通論者としてのコルソンの著述に就ては前稿「鐵道經濟に關する文獻の經濟學史的研究」中に述べて置いた事を記して置く。

第五節 英 米

英人ラードナー (Dr. D. Lardner), Sir William Acworth (1850—1925) Alfred Marshall (1841—1924) Francis

Ysidro Edgeworth (1845—1926) 先生其他現存の Pigou 教授に就ても前稿「鐵道經濟に關する文獻の經濟學史的
研究」中に述べて置いた。

A. W. Kirkaldy (1867—1931) Professor of Finance in the University of Birmingham, 1906 to 1919, and
Professor of Economics and Commerce, University College, Nottingham, 1917 to 1931. に就ても其交通論的著述
British Shipping, 1919, The History and Economics of Transport に就ても述ぶべきであるかも知れないが今は
省略する。

Sir Rowland Hill の英國財政的及郵便制度的貢獻に就て述ぶたいが、それも省略する (The Life of Sir Rowland
Hill and the History of Penny Postage 参照) 米國の學者中 Edwin R. A. Seligman, Arthur T. Hadley, Henry C.
Adams, J. B. Clark, Taussig 等に就て前稿「鐵道經濟に關する文獻の經濟學史的 research」中に述べて置いた。

米國エール大學名譽總長 Arthur Twining Hadley 氏は我國にて先年急死された。氏を悼む文は The Economic
Journal, Vol. XL. Sept. 1930 に Irving Fisher 教授が寄せてゐる。一讀に價する。

米國に於ける財政學の著述家、學者として米國經濟學史又財政學史上に著名なる Henry C. Adams (1851—19
21) は Outline of Lectures upon Political Economy, 1881 Relation of the State to Industrial Action, 1886 の外
に財政學に就ては (1) Taxation in the United States, 1789—1816, 1884. (2) Public Debts, 1887. (3) Science
of Finance, 1898. 等の著述あり。Henry Carter Adams (1851—1921) は dir. div. transportation 11st Census たり
し事あり鐵道に就て次の著述がある。

財政學者の鐵道經濟に關する研究論著に就きて

Statistics of Railways 1888-1910; Chinese Railway Accounting, 1916; American Railway Accounting 1918. 等即ち支那鐵道會計に就ても著述がある。彼は千九百十二年支那に赴き四年間顧問として働いた彼に就ては The Economic Journal Vol. XXXII June 1922. Edwin R. A. Seligman が April. 15, 1922. 附にて追悼文を寄せて居る。

彼が永眠した年を 1921 年となすものと 1922 年となすものと二種あるが Seligman の文によれば 1922 年と想像される。彼の死後程なく千九百二十二年二月二十一日彼の墓上に a monument and memorial tablet to commemorate his services が置かれ、彼の功績を稱へた追悼の辭が Dr. F. Chang により述べられたと Seligman 教授は述べ其一節が引用してある。アダムス教授は米支親善に貢獻したものと認められて居る。

Henry C. Adams に就て Handbuch der Finanzwissenschaft Erster Band. 9. Geschichte der Finanzwissenschaft ausserhalb Deutschlands,.....Von Professor Dr. Edwin R. A. Seligman. § 3. Die Vereinigten Staaten の部に次の如く述べてある。

Henry C. Adams veröffentlichte im Jahr 1880 seine Abhandlung Taxation in the United States, 1789-1796, dem 1887 Public Debts folgte. Das letztere wurde bald unter die klassischen Werke gerechnet. 1898 veröffentlichte er The Science of Finance, das erste eingehende Werk in den Vereinigten Staaten über diese Materie. Es zeichnet sich sowohl durch Originalität und Glanz der Darstellung wie auch durch die Vertrautheit des Verfassers mit der einschlägigen europäischen Literatur aus. Später befasste sich Adams jedoch vornehmlich mit den Fragen des Eisenbahntransportwesens (圖書第三〇三頁參照)

Railroad, their Origin and Problems の著者トマス・C (Adams) は C. F. Adams (1835-1915) と別人である。こ

の人の著述「鐵道の起原及問題」は千八百八十五年以前米國に於ける唯一の學術的鐵道論なりとはヘッドレー教授の指摘した所である。又英國の鐵道經濟論の大家 Acworth 氏が嘗て The Economic Journal 誌上 Railway Economics と題する一文中に第一に掲げて居る。又セリグマンの論文 Railway Tariff and the Interstate Commerce Law 中にも引用されて居る。(Essays in Economics by Edwin R. A. Seligman, N. Y. 1925 (卷二百十二頁参照) (完)

追 録

一、故シュッツ教授の傳に就ては同教授の自叙傳 (Selbstbiographie Von Georg Von Schanz) が其肖像と共に Finanzarchiv, Neue Folge Bd. I. Heft 1. に掲げてある。

二、Gustav Friedrich Von Schönberg (1839-1908) に就ては省略した。

三、英米の部に於て

1) Common Sense of Municipal Trading

By Bernard Shaw London 1904

2) A. D. Smith, the Development of Rates of Postage 等に就て書く積りなりしも省いた。

又 Edwin Cannan (1861-1935) 先生の著述 The History of Local Rates in England (1896.) 又先生のアンダー・スマース研究、又キャナン先生に獻呈された The London Essays in Economics, 1927. に就て一言する積りなりしそれも略した。

尙又米國の財政學者故 Henry C. Adams の鐵道會計に關する著作目録の參考文獻として Railroad Finance By Frederick A. Cleveland and Fred Wilbur Powell. N. Y. and London 1912 卷末の Chapter XVIII Bibliography III. p. 370 Henry

財政學者の鐵道經濟に關する研究論著に就きて

財政學者の鐵道經濟に關する研究論著に就きて

四五六

Carter Adams の部に掲ぐる處を載せ本稿第四節中に掲ぐる Handbuch der Finanzwissenschaft Erster Bd. 米國の部其他の記事を批判したいと思つたがそれも省いた事を追録して置く。

Prof. Henry Carter Adams は西曆千九百二十一年八月十一日 The August 11, 1921 に永眠された事は The American Economic Review, Dec. 1921 號の報ずる處である。果して然らば Henry Carter Adams (1851-1921) 48 頁 135。Henry Carter Adams (1851-1922) は誤である。この點に就て古屋美良氏著『米國經濟學の史的發展』第四百十頁に記する處は正しい。